

看護 KANGO SHIZUOKA しずおか

●先人に聞く 忘れられない看護
自律した看護を目指して P3

●活躍する
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 P4・5

●お仕事拝見
赤ちゃんは家族の幸せ P6・7

●看護職ウォッチャー!!
優しいだけではダメでしょう P8

平成27年度 Vol.

3



会員数 19,479名 (平成27年9月7日 現在)

●保健師 534名 ●看護師 17,256名
●助産師 748名 ●准看護師 941名

敬老の日「これからも元気でいてね!」
ふみさん(101歳)ひ孫と共に



公益社団法人 静岡県看護協会

静岡県看護協会

検索

【静岡県看護協会】
お気軽にご利用下さい。



平成27年度 第2回定時理事会報告

■開催日時 平成27年7月21日(火) 14:00～16:00

■会場 静岡県看護協会 第1会議室

出席理事:20名、欠席理事:2名 定款第38条に基づき、定足数11名を満たしていることを確認
出席監事:2名、欠席監事:1名

1.協議事項(すべての事項について承認される)

(1)平成27年度事業報告について
総務部・教育研修部・事業部

(2)平成28年度定時総会の日時及び場所について
平成28年6月28日(火)グランシップ中ホール

2.報告事項

(1)関係機関、関係団体の役員、委員の就任について
(2)平成28年春の叙勲・褒章候補者の推薦について
(3)第44回医療功労賞候補者の推薦について

(4)平成27年度定時総会提案に対する対応
(5)会員入会の申請状況
(6)その他

「平成27年度 静岡県看護協会新入会員研修」終了

新入会員研修は、6月1日(月)から8月10日(月)までの期間に東部、中部、西部で7回開催しました。受講者は33施設から643名が参加され熱気あふれる研修会でした。

研修目的は、①看護専門職能団体の組織・活動を理解し加入の意義が分かる②仲間と共に看護職能人としてキャリア発達をめざす自分づくりの機会とする③同世代の新人看護職と交流を深めネットワークをつくるです。

先輩看護師からのメッセージ「私の看護、新人に伝えたいこと」では、真剣なまなざしで聴いていました。今の自分の悩みは誰もが通る道と受け止め、安心感や頑張ろうという気持ちを持つことができたようです。グループワークでは、他施設の人と話ができ気持ちが楽になり、仲間の大切さを実感したようです。看護協会、ナースセンターを多いに活用し働き続けて欲しいと思います。



先輩看護師からのメッセージ



グループワークで交流を深める

平成27年度役員・委員研修会を開催しました



齋藤訓子氏

7月28日(火)に静岡県看護協会第1研修室にて、平成27年度の役員と委員を対象に研修会を開催しました。望月会長が「静岡県看護協会の定款及び役員役割」について説明。その後、日本看護協会常任理事 齋藤訓子氏より「医療介護総合確保推進法に基づいた日本看護協会の重点政策・重点事業」について講演がありました。参加者は127名(役員20名、委員48名、地区支部役員59名)でした。今年は役員改選の年で新任役員、委員が多い年です。地域医療構想、地域包括ケアシステムの動きの中、日本看護協会と静岡県看護協会の重点政策・重点事業を確認でき、今後の取り組みに生かせる研修会となりました。

「静岡県看護協会は、ふじのくに健康福祉キャンペーンに協賛しています」

先人に聞く 忘れられない看護 自律した看護を目指して

今回は、看護管理のスペシャリストとして活躍し、公私ともに充実した人生を送っている高嶋妙子さんに看護師の現任教育や看護に対する熱い思いやエピソード、私生活などを聞きました。(インタビュー 平成27年5月28日 於 静岡県看護協会会館)

【プロフィール】 高嶋 妙子 (昭和14年生)

昭和36年、関東通信病院付属高等看護学院を卒業後、国立療養所中野病院、国立東京第一病院で看護師として実践を積む。

昭和44年、30歳で北里大学病院に就職し、主任看護師、管理婦長、副看護部長を歴任し看護管理の手腕を発揮する。さらに昭和55年、40歳で聖隷浜松病院総婦長に就任。「部下に看護師になったことを悔やませたくない」と心から願い、院内教育体系を創造し、「力の看護部」を創りあげた。その集大成として、「管理論 何が自律した看護婦をつくるのか」を日本看護協会出版会から執筆している。

平成7年から6年間静岡県看護協会会長として活躍し、併せて平成10年から6年間は日本看護協会看護師職能理事、さらに平成16年から6年間は監事として活躍した。

平成27年日本看護協会名誉会員となる。



高嶋妙子さん

自立を考える

幼い頃は、8人家族で貧乏だった。家計は祖母(父の母)が握っていた。小学生時代は、大人しくて(当時の同級生もそう言ってくれる)勉強も良くできる子どもだった。小学校5・6年の担任だった先生も「勉強が良くできる子だから、もっと良い学校に入ったほうが良い」と言ってくれ、中学からの入学が10人位しかできないミッションスクールへの進学を勧められた。当時、学校の先生の言うことは絶対聞かないといけないと、普通の親は考えた。32歳だった母親は、私の進学のことで悩んで、何回も担任に相談に行っていたと、後に恩師から聞いた。結局、中学はミッションスクールに入学した。

ミッションスクールの月謝は、毎月祖母にもらいに行き、その時に必ずと言っていいほど母の悪口を聞かされ、耐えられなかった。ミッションスクールの同級生はみんなお嬢様で、何か違いを感じていた。友達の家に行くと応接間でケーキが出たが、自分の家はサツマイモだった。しかし、私はその違いを恥ずかしいとか、見栄を張ることのない人種だった。

思春期時代から自立を考えていた。お金のこともあり、親にも相談しないで県立高校に進学することに決めた。できるだけ早く自立して、自分がやろうと思っていることをやると決心していた。

看護との出会い

高校卒業後、滑り止めで受験したのが看護学校。本当は別の職業を希望していた。だから、看護の仕事は偶然に出会った。私自身は文学少女であり、「人はなぜ生きるのか」なんて、おっとり考えていた。

東京都品川区五反田にある関東通信病院付属看護学院に給費生として進学し、看護婦の資格を取った。親からの仕送りはほとんど必要なかった。その時代給費生は労働力でもあった。モーニングケア・イブニングケアが学生の仕事であり、実習単位以上に多くの患者と接することができた。

そこでは、命の壮絶な戦いに、生きたくても生きられない人

たちがいた。そして、ひたすら生きることの大事さを知った。

命に感動し、「なぜ、生きるのか」から「どのように生きるのか」が課題になった。どのように生きることが私らしく生きることなのか。看護が、この青臭い課題を問い続けることができる職業であることがわかった。今なお自分に問われることでもあるが。

関東の全看学連の立ち上げ

看護学生時代に60年安保闘争を経験した。大学には、全学連(全日本学生自治会総連合)があった。当時、看護学生も連携をとり、学生同士のつながりを大切にしようという話があり、私自身も関東の全看学連の立ち上げに1年生の時から関わった。そこで世の中のいろいろなことを学んだ。東大の学生運動家であった樺美智子さんが亡くなった60年安保闘争はすごく、国民運動が盛り上がった最後の時代であった。私は、学生同士がつながりを持つことは大事だと思っていたが当時の教務はつながりを持つことに反対していた。

雇用契約存在確認の訴え

関東通信病院付属看護学院を卒業すると、その病院の看護婦になるのが普通だった。でも私は、学生運動が原因で、就職することができなかった。全電通の組合(全国電気通信従業員組合)に協力を求め、裁判闘争になった。約束を守らないことが許せなく、そのことで6年間裁判を行った。裁判では、家族も法廷に引き出され、私も知らない人が証言に立った。高裁で終わり、最高裁まではいかなかったが、結局、裁判は負けた。でも、負けてよかった。給費生がひも付きではないという判例になった。「雇用契約存在確認の訴え」という、裁判を背負っていたので、新卒で就職活動をしなくても、看護学校の教務に問い合わせが入り、就職することができなかった。

だから、新鮮な夢いっぱいスタートにはならなかった。

活躍する脳卒中リハビリテーション看護

県内では、358人の認定看護師がそれぞれの分野で活躍しています。

平成21年度から静岡県看護協会では、全国に先駆けて脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程が始まり、平成26年度までに31名が取得しています。今回から3回にわたって紹介します。



焼津市立総合病院
伊東 美幸

- ①患者さんの生活の不自由さや不安・苦悩を、以前より理解できるようになったと思います。患者さんやご家族から、話を聞いてもらって良かったと言ってもらえた時が嬉しいです。
- ②他職種カンファレンスや回診で患者さんを把握し必要な介入を検討、他職種と連携を図り、介入を継続するよう看護スタッフに依頼しています。院内の新人教育や関連部署・地域の看護福祉関係者への勉強会、連携病院との意見交換会で症例報告など行っています。
- ③いつもご理解とご支援をありがとうございます。少しでも患者さんやご家族のお役に立てるよう活動を継続します。今後看護研究を行う予定です。患者さんやご家族の心と体を支えられるよう一緒に頑張りましょう。



NTT東日本伊豆病院
荻野 深雪

認定看護師になってから、以前は経験で得たことで問題解決してきたことを、教育課程で得た知識や理論等をもとに視野を広げ対応できるようになりました。また、困りごとがあっても全国にいる仲間と相談したり、情報交換ができる心強さがあります。院外の活動では講演やシンポジストをさせていただき、認定看護師の役割やリハビリテーション看護をより深める機会となりました。現在、育児休暇を経て配属が代わりブランクはありますが、改めて脳卒中リハビリテーション看護認定看護師としてどのように患者様、地域、病院に貢献できるかを考えています。皆様に活用していただける存在になれるような活動を目指します。



伊東市民病院
佐藤 千恵

私が認定看護師を目指したのは、脳卒中の患者さんがその後の人生を、「障害により諦めて欲しくない」という思いから、看護実践力に自信を持ち、患者さんと共に立ち向かっていきたいと考えたからです。

現在私の活動内容は、集中治療室で急性期の患者さんのケアをし、また、地域住民の皆さんへ「脳卒中の予防・早期発見について」など、講習会による地域啓発活動です。

認定看護師となった今、障害を持った患者さんと向き合っていくためには勇気が必要で、自分自身への責任が伴い、常に不安でいっぱいです。しかし、その不安を「やりがい」に転換できたとき、専門職としてこの仕事に誇りを持つことができ、自信につながるのだと感じています。



JA 静岡厚生連 遠州病院
中村 真理子

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師として、看護学生、新人看護師を対象に教育的な役割を担っています。認定看護師教育課程で学んだ患者さんの「その人らしさ」を大切する姿勢を基本に、重篤化回避のための看護や、生活再構築のための支援技術を自分の体験と合わせて伝えています。

実践では、一般病棟、回復期病棟を経て、今年度からICU病棟に配属されました。患者さんの様々な回復過程に寄り添う機会をいただいています。超急性期では病棟スタッフとともに予後予測についての理解や多職種との連携をすすめて、早期離床に取り組んでいくことを目標にしています。



沼津市立病院
内村 英昭

①専門的な知識や経験を得た事で、常に問題意識を持ち、解決する為に積極的に動けるようになりました。また教育課程では、異なる環境の人たちと触れ合う事で、様々な看護観と出合い一生の財産となりました。

②院内勉強会・研修・カンファレンスの企画運営、院内外からのコンサルテーション(看護学校講師、認定看護師教育課程非常勤講師等)専門誌執筆等。

③何かに迷っているならば、まずは始めてみたらどうでしょうか。全ては自分次第です。常にチャレンジする気持ちを大切にしてください。



聖隷三方原病院
齋藤 花菜子

私は2011年脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を取得しました。資格取得後、ICUでの勤務を経て、現在は一般病棟において回復期に移行する脳卒中患者さんの看護をスタッフと共に実践しています。当院は昨年度よりパートナーシップ・ナーシング・システムを導入しました。ベッドサイドで病棟スタッフとペアとなり、その場で必要な看護を実践し、必要時指導・相談業務ができることは認定看護師としてこの上ない環境であり、やりがいを感じています。今後は患者さん本人への再発予防指導はもちろん、御家族や地域の方々に向けた脳卒中発症予防指導を行なっていきたいと考えています。



静岡赤十字病院
梶原 聡子

- ①教育課程で学んだことを活かし、患者さんの回復に役立てた時は嬉しいです。教育課程の教員、一緒に学んだ仲間、後輩との出会いは私の看護師としての世界を広げてくれました。今でも交流を続け、活動の支えとなっています。
- ②病院内では役割モデルとしての実践や脳卒中に関する講義、スタッフの育成、早期離床や再発予防指導等の実施、また、摂食嚥下チームの活動に参加しています。院外では一般市民や看護職・セラピストに講義を行います。一昨年は教育課程の専任教員として後輩の育成に携わりました。
- ③上司や同僚・後輩は私の活動や提案にいつも協力し、あたたかく支えて下さり心から感謝しています。これからもよろしくお願ひ致します。



三島総合病院
堀口 瑞穂

根拠に基づいて専門性の高い看護技術を提供できることは、とてもやりがいがあり充実しています。また認定になったことで、全国に同じ志をもつ仲間ができ、仲間の存在が心の支えであり、日々の活動のモチベーションにもつながっています。

週に1日の活動日があり、脳外科カンファレンスに参加しています。また、摂食嚥下チームに所属し、嚥下評価や摂食訓練の必要性を伝えています。院内だけでなく、附属の老健施設や看護協会、看護学校などにも廃用症候群予防のための早期リハビリテーションや、食べるために必要な訓練・評価方法などの講義をしています。

今後、一緒に活動できる仲間がたくさん誕生してほしいです。



市立島田市民病院
藪崎 優子

- ①患者の主体性を生かす看護を学び、「相手の立場に立って考える」ということを深く考えるようになりました。仕事だけでなく、人間的にも多くのことを学ぶ機会を得ました。
- ②回復期病棟に所属し、「高次脳機能障害」「生活再構築」への看護支援を行っています。また、地域の皆様に「早期発見・早期受診」の知識啓発活動として、演劇を交えた講演を行っています。
- ③維持期を見据えた看護支援を、他職種と協働しながら行っていきたいと考えています。



農協共済中伊豆リハビリテーションセンター
大田 美穂

はじめての更新を迎え、5年の活動を振り返ってみると、特に脳卒中再発予防教育と高次脳機能障害患者・家族への支援を中心に取り組んできました。院外では、地域での脳卒中予防の啓発や健康相談会を通して、生活習慣の見直し・改善に少しでも役立てられればという思いで活動を継続してきました。それらの関わりの中で、「話して少し安心した」「聞ける場所があったよかった」などという言葉がたくさん頂き、活動を継続してきてよかったなと実感し、また自分自身の活力にも繋がっています。

今後は、病棟看護師による再発予防の教育や高次脳機能障害についての対応力が高められるように教育活動を進めたいと思います。

〈質問内容〉

- ①認定看護師の資格を取って役立ったこと、よかったこと
- ②日頃の活動内容(病院の内外を含む)
- ③今後の抱負や上司・同僚・後輩へ伝えたいこと

読者の広場



今年から就職のために福岡から静岡にきたため、静岡でどのような研修が行われているのが詳しく分かりとても参考になりました。

総会に出席できませんでした。総会の様子や新役員の皆様の顔が見える紹介欄があり、とても良かったと思います。総会後のコンサートの演奏者と一緒の表紙写真が、一瞬目を引くとともに、聞けなくて残念…という思いが湧きあがってきました。医療守全情報が端的に分かりやすかったと思います。

先人に聞く、白松万里子さん55年間の現役時代、病欠は一日もなかった。すごいことです。自己管理がしっかりしているのに驚きました。改めて気をつけて生活をしたいです。

私事ですが息子と母親が入院中で看護師さんには本当にお世話になっています。最近では男性の方も増え、息子は話し相手になってもらい、とてもありがたいようです。

看護の知識や資格をいろいろな分野で生かしながら、第一線で活躍している方々のお仕事を、ちょっと拝見してみます。

赤ちゃんは家族の幸せ



助産師
小柳布佐さん

今回は、静岡県伊豆市で桃太郎助産院を開業されている小柳さんを訪ねました。昭和48年に大阪赤十字助産婦学校を卒業後、長年助産師として活躍してきました。活躍の場は病院にとどまらず、保健所や大学教育の現場もあります。また、自身も大学で心理・教育学を学んだり、大学院で公共政策に関する研究をしたりと常に向上心を持ち続けています。

地域に求められて助産院を開院

伊豆赤十字病院に勤務していた時、産科医師の確保が難しく産科は閉鎖に追い込まれる事態となりました。その時、伊豆市から「この地域で出産できる施設がないのは困る、だれか開業してくれないか」という強い要請があったのです。他のスタッフはまだ若く、開業する心の準備もできていませんでした。地元藤枝で「心理カウンセリングルーム・母乳ケアどころ」を開業していたため施設移転はかなり迷いがあったのですが、地域母子支援を考え決断しました。こうして、2007年10月伊豆市日向に桃太郎助産院が誕生しました。修善寺駅から少し郊外に車を走らせると、緑多い長閑な山あい、桃太郎助産院の看板が目飛び込んできます。



そのひとにあったお産を!

分娩の数は、月に1件から8件位でばらつきがありません。病院での第1子の出産がトラウマとなり、次の妊娠出産を受け止められなくなった女性が、心配した母親に付き添われて訪ねてきたことがありました。何回か会って話をしていくうちに徐々に打ち解け、ここでなら出産ができると思えるようになり、無事出産しました。子どもは一人だけでいいと言っていたのに、今では4人の母とな

り育児に励んでいます。妊婦健診は一人に1回30～40分じっくり時間をかけ、超音波で胎児の様子を診ながらいろいろな話をします。その日の尿検査で尿蛋白が出ていれば「何を食べていたの?」と食生活についていろいろ聴いていきます。「関わる一瞬一瞬が全て指導の場面なので、母親学級も退院指導も必要ない」といいます。この助産院で出産したいと思って訪れる妊婦さんたちは、自分達が何を守らなければならないのか、そうでなければこの助産院では出産できないということに自ずと気づいて一生懸命になります。お産はフリースタイルなので、その人の産みたい姿勢で出産します。産褥の入院期間も、早く帰りたい人は3日くらいで自宅に戻り、ゆっくりしていきたいと長めに滞在していく褥婦さんもいます。また、他の病院で出産し、予定通り退院して自宅に戻ったけれど、これからの授乳や育児に不安を抱え母子で産褥入院するケースもあるといえます。退院する人たちは、産院内の写真を思い出にたくさん撮って帰っていきます。ここでの出産体験や小柳さんと過ごした時間が、これからの育児の支えとなっていきます。



超音波と診療台



フリースタイルの
できる分娩台

子供たちに命の大切さを伝える!

7月1日、出前講座「いのちの話」取材するために一路、富士市立吉永第一小学校に向かいました。出迎えてくれたのは、準備を終えた小柳さん達とやさしい笑顔の校長先生、そしてこの教室のスポンサーである富士マウントライオンズクラブの理事の方々。子どもたちの心身の健全な成長発達を願う気持ちは皆同じ。この日は、3・4年生を対象に教室が開かれました。「たった一つの卵子と、たった一つの精子が会って命の源“受精卵”になります」一人一人に配られた折り紙につけた針穴を示し、「初めはこのくらいの大きさです」という説明に、「ちっちゃーい!」と歓声があがります。女の子と男の子の体の変化の違いや、自分たちの体を大切にすることをわかりやすく伝えていきます。最後の質問コーナーも子どもたちからたくさん手が上がり、一つ一つ丁寧に答えていました。



▲折り紙の針穴をみつめる子どもたち



▲命の誕生を説明する小柳さんたち

出前講座「いのちの話」は、いじめによる自殺や青少年犯罪の増加という社会現象に対し、命の誕生の場に立ち会う助産師として、すべての子どもたちに生きる力を持ち続けて欲しいという願いから生まれた活動で、全国で進められています。基本理念は同ですが、自分たちの地域性に合わせ、また対象の年齢を考えた内容にアレンジして行っています。

この活動は平成27年6月に横浜で開催されたICM(国際助産師連盟)の大会でもパネル発表しています。

繋がる人の輪

今から15年前、静岡赤十字病院に勤務していた時、五つ子を妊娠している妊婦を担当することになりました。出産後、こども病院を次々と退院してくる子どもたちに、次第にパニック状態となった母親を手助けするため、病院を退職して支援しました。彼らも高校生になりますが、今も近況報告が届きます。桃太郎助産院のHPを開くと、マタニティフィットネス・マタニティヨガ・ベビーマッサージなどの教室が紹介されています。これらは、桃太郎助産院で出産された方や、赤十字で救急法の講師をしたときの受講者の奥様が指導者となって定期的に教室を開いています。また、伊豆赤十字病院で一緒に勤務していた人たちとは、産科の閉鎖でバラバラになってしまったけれど、スタッフとして一緒に仕事をしたり、他院に移った方々も時々たずねてきてくれます。

身近にいる人に手を差し伸べずにいられないそんな人柄が、周りに人の輪を築いていくようです。小柳さんを中心に、この輪はこれからもまだまだ繋がっていきます。

「赤ちゃんは家族の幸せ」桃太郎助産院のホームページはそんな言葉から始まっています。女性が安心して子育てを続け、生きがいのある日々を過ごせることを願って、いつも門戸を開いています。

桃太郎助産院ホームページ

<http://www.momo-f.com/info.php>



▲ベビーマッサージ



▲赤ちゃんと共に



濱松加寸子教授

優しいだけでは ダメでしょう

看護職の姿は患者さんなどにどのように映っているか……。自分達の姿を知る鏡として、看護職をよく知る方々に話を聞いています。
7回目は、自身の入院体験をもとに常葉大学健康科学部看護学科濱松加寸子教授に執筆をお願いしました。

聞こえない

東京出張中、突然聞こえなくなった。家に帰りテレビから流れる音が普通の音量ではほとんど聞こえない。「これは普通ではない。突発性難聴だ」と思い、翌朝そのまま受診した。診断名は右急性感音難聴、入院し突発性難聴のクリニカルパスで治療が開始された。

私は20代の時、交通事故に遭遇し左聴力を失っている。頼みの綱は右耳しかないので聴力に関してかなり神経を使っている。難聴となった今の聴力では仕事はもちろん、日常生活にも支障が出る。このままでは困る、何としても回復したいと落ち着かなかった。入院中、回復したかと思うと翌日は聴力が落ちる、の繰り返しだった。本当に回復するのか、職場復帰できるのだろうかと不安が募っていた。

ロボット化された看護師

看護師はみな素敵な笑顔で優しくかった。でも、不安な思いは聞いてもらえなかった。唯一一人の看護師だけが「聴力回復は波があって(略)元に戻る人は70%くらいでしょうか」と対応してくれた。「戻らないかも?」とショックだったが、私の抱える不安について多少は聞いてもらうことはできた。

それ以外の方は「聞こえにくいです」と訴えても、「そうですか。耳鳴りはありませんか?ふらつきは?お通じは普通にありませんか?」と、薬の副作用の確認はしても、私が一番気にしていることに向き合ってもらうことはできなかった。ワゴンにパソコンを載せ、画面を見ながら同じ質問をしていく看護師。「話を聞いて欲しい」という期待は削がれ次第に不信へと変わっていった。無味乾燥とした、まるでロボットと接しているように感じた。

何かおかしい、これでいいの?

この状況に患者としての私はもちろん、看護教育に携わって

いる者としても大きな衝撃を受けた。「看護って何?」「決まったことだけ行るのが看護ではないよね」と当たり前のことがわからなくなってしまっていた。

このような看護師を育てるために私は看護基礎教育に携わっているのではない。現代若者の特徴である、思いはもっていても一見冷めたようにみえる学生たちを相手に、教員は時に熱くなり、お尻を叩き叱咤激励しながら育てている。機械化された看護師を育成しているのではない。看護の現場、本当にこれでいいの?

専門職業人の育成を

現在多くの病院はクリニカルパスによって標準看護計画が立案され、それによって看護ケアが提供されている。クリニカルパスに沿った標準看護計画は、あくまでも一定レベルの看護の質を保証するものであり個性は含まれていない。万一、マニュアル化された看護計画に則り行っていれば「看護をしている」と思っているとしたら恐ろしい。

確かに看護師にとって優しさは大切な要素かもしれない。しかし、これは副次的であり、第一義的なものは的確な看護実践力である。現状の看護実践に安住することなく「本当にこれでいいの?」と、常に患者目線で疑問をもてる看護師を育てたい。現在の病状・病態が過去の病歴や生活背景とどう関連しているのか、またどのような思いで入院しているのかを理解しようとする看護師。

教育現場では現状に対する問題意識をもてる学生を育て、臨床の中では、スタッフ一人ひとりの思いを吸い上げる職場環境を整備し、「やる気」や「看護師になって良かった」と思える看護師を育てていただきたい。そのためには、教育と臨床側で協働・連携しながら、単に優しいだけではない、看護の専門家として誇りがもてる専門職業人の育成をめざしていきたい。

1 認知症患者の看護 I

教育研修部 大關和子

7月2日静岡グランシップにて「認知症患者の看護I：一般病院等の看護職員向け認知症対応力向上研修」が開催され看護職員約270名が参加しました。認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）に向けて静岡県健康福祉部と看護協会の共同開催です。認知症患者を取り巻く家族および各専門職から講師を招き、5講座を開講し密度の濃い研修となりました。認知症の動向や施策の理解、認知症および看護についての基本的知識の習得、患者・家族の実際を知り、介護施設での対応力や地域との連携について学びました。社会全体に視野を広げて考える機会となり、患者・家族にしっかり心が向いた研修であったと好評を得ました。社会的ニーズの高い認知症患者へのケアに活かして欲しいと思います。



2 看護実践と理論 —私が大切にしている看護—

教育研修部 大關和子



7/23・24の2日間にわたり、「看護実践と理論—私が大切にしている看護—」研修を実施しました。抽象的で難しく実践とは遠い所にあるものと思われやすい看護理論ですが、三浦智美講師による「看護理論とは味噌汁のだしのようなものである」から始まった研修は、「理論とは何か」をやさしい言葉で豊富な実践場面のエピソードからひも解きました。理論発達の歴史をナイチンゲールの存在と活動から学んだあと、職場も年齢も違う受講生が互いに「大切にしている看護」について存分に語り合い共感しリフレッシュすることができました。2日目はヘンダーソン、ペプロウ、ウィーデンバック、トラベルビー、ベナー、中範囲理論の特徴を学び、グループで意見交換した「大切にしている看護」について「〇〇理論」とネーミングして発表。ワークを通して日々の看護実践の中に理論があること、また理論が実践で迷った時の道標となり自信をつけてくれるものと確認でき現場に活かす方法を学びました。

3 看護研究の基礎～研究計画書にトライ～

学術研究推進委員会 原澤純子

猛暑の中、8月4日の三島会場を皮切りに、浜松(8月6日～)、静岡(8月10日～)の3会場で、それぞれ3日間にわたり開催しました。この研修は、日々の看護実践の中で感じていた疑問を、研究テーマとして明確化し、さらに文献からテーマの意義や方法について検討し、最終的には研究計画書を作成することを目標としています。

受講者の臨床現場で何となくもやもやと抱えていた疑問が、文章化したり、ディスカッションすることによって、徐々に焦点化されていきました。また、文献のクリティークや整理方法など、研究に取り組むために必要な知識や方法についても学ぶことができました。

本研修を通して、日々の看護実践の中から生まれた研究疑問が、看護研究として花を咲かせ、さらなる看護の発展につながる道標になればと思います。



お知らせ

平成 28 年度 資格認定教育 教育課程の開講予定

認定看護管理者教育課程	ファーストレベル	5月中旬～
	セカンドレベル	11月中旬～
	サードレベル	7月中旬～
認定看護師教育課程	脳卒中リハビリテーション看護	休講

こんにちは! ワーク・ライフ・バランス (WLB) 推進委員会です!!



看護職のWLB推進ワークショップ事業「WLB推進のための研修会」を開催

平成27年8月20日 於 静岡県看護協会 参加者80名



吉村浩美氏

WLB推進事業は4年目に入り7施設が参加しています。静岡県看護協会では本年度、「多職種連携で行うWLB」を推進しています。

本研修会では聖隷三方原病院吉村浩美総看護部長から、他職種連携の実践と成果の先進事例の報告がありました。また、ふじのくに医療勤務環境改善支援センターの社会保険労務士と医療経営アドバイザーから、「役割と支援出来ること」について話がありました。その後、参加施設ごとのワークショップを実施しましたが、支援センターの社会保険労務士もグループワークに参加し、専門の立場から意見をいただき今後に向けて、活発に課題とアクションプランを討議しました。



ワークショップ開催中

勤務環境改善のための枠組み メニュー (厚労省 研究班)

- ◇働き方・休み方改善 ●時間外労働の削減、休暇の取得促進、夜勤負担軽減
- 医師・看護師・コメディカルの負担軽減：雇用形態や勤務形態が選択可能な制度



- ◇職員の健康支援
 - 職員の生活習慣病対策 ●メンタルヘルスケア対策 ●作業環境対策
- ◇働きやすさ確保のための環境整備(ソフト面・ハード面)
 - 仕事と子育て・介護との両立支援 ●職員の安全確保(暴言・暴力への対策)
 - いじめ・ハラスメント対策 ●職場風土・環境整備 ●人材の定着化の視点
- ◇働きがいの向上
 - 専門職としてのキャリアアップ支援 ●人事異動によるキャリアアップ

※各医療機関が、それぞれの現状やニーズに応じた内容を盛り込むことが大切です。
 ※ご相談は、ふじのくに医療勤務環境改善支援センターへ (県庁内) ☎054-221-3762

静岡県看護協会公益事業 「第7回 訪問看護ステーション清水 地域交流会」

平成27年7月24日(金) 於 清水テレサ

本年度の地域交流会は、増加する高齢者の身体的問題である摂食・嚥下障害を取り上げ、専門職の連携とケアの質向上を図り在宅療養の安心・安全に繋げていくことを目的として開催しました。「摂食・嚥下障害の利用者のケア」をテーマに増田江美氏(静岡赤十字病院、摂食・嚥下障害看護認定看護師)が講演しました。参加者は、病院、歯科医院、訪問看護ステーション、福祉施設、地域包括支援センター、看護学校などから49名(歯科医師、看護師、栄養士、理学療法士、介護支援専門員、歯科衛生士、事務)の参加があり、多職種の専門的な意見が交換でき有意義な研修となりました。

(訪問看護ステーション清水 風間祐子)



増田江美氏と訪問看護ステーション清水の皆さん

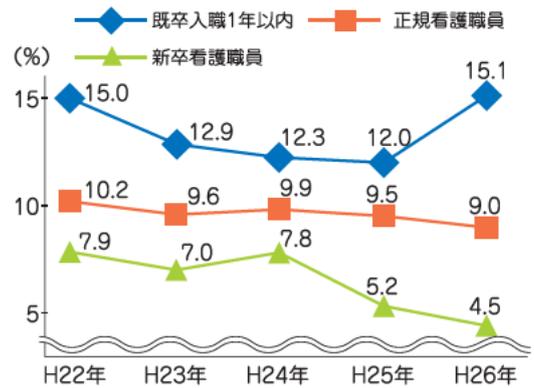
ナースセンターだより

●平成26年 看護職員の入退職状況

年度内 入・退職者数	入職者数		退職者数	
	H25年	H26年	H25年	H26年
新卒者	1,035	1,093	54	49
既卒者 (1年以内の退職)	895	903	1,380 (107)	1,324 (136)
合計	1,930	1,996	1,434	1,373

*静岡県内の180の病院に調査依頼し、137の病院が回答(有効回収率76.1%)

●看護職員の離職率の推移



【退職理由】

<新卒者>

- 1位:適正・能力の不安
- 2位:健康上の問題(精神面)
- 3位:健康上の問題(身体面)

<既卒者>

- 1位:他の職場への興味(看護)
- 2位:結婚(転居)
- 3位:健康上の問題(身体)

【離職防止対策で効果のあったもの】

- 1位:多様な勤務形態
- 2位:子育て支援
- 3位:教育研修体制・定年後の再雇用

今後はさらに既卒者の早期離職対策が急が急務!



平成27年10月 看護師人材確保推進法が改正

離職時などにナースセンターへの届出が努力義務化になります!

<高齢者ケア施設見学会のお知らせ>

再就業をお考えの方、定年退職予定の方、高齢者ケア施設に興味をお持ちの方、見学ツアー(マイクロバス)に参加しませんか。病院施設だけでなく、高齢者ケア施設においても医療・看護を必要としている人が増えています。他職種とのチーム連携や急性期病院の看護との違い、看護の特徴、やりがいを現場で体感してみませんか。

会場	東部	中部	西部
開催日	11月12日(木)	11月5日(木)	11月17日(火)
見学施設	特別養護老人ホーム ぬまづホーム	静岡アオイ病院	特別養護老人ホーム 和合愛光園
	三島総合病院附属 介護老人保健施設	特別養護老人ホーム 厚生苑 清流の郷	介護老人保健施設 ケアセンター芳川

*参加は無料です。保育費:一部支援あります。詳細はナースセンターホームページをご覧ください。

<看護職のための合同就職相談会のお知らせ>

再就業をお考えの未就業の看護職・定年退職予定の方、就業先が未決定の看護学生の方、ナースセンター届け出をしてくださった皆様、働く場や働き方など多様化してきています。合同就職相談会は直接話を聞いたり相談できるチャンスです。お気軽にご参加ください。詳細はナースセンター ホームページに掲載します。

会場	東部会場	静岡会場	浜松会場
開催日	12月5日(土)	12月12日(土)	12月19日(土)
時間	11時~15時30分	11時~15時30分	11時~15時30分
会場	ブラサヴェルデ	グランシップ10階	クリエイティブ浜松

<再就業準備講習会 今後の予定>

実施施設	実施期日
静岡赤十字病院	10月27日(火)・28日(水)・29日(木)
NTT東日本伊豆病院	12月9日(水)・10日(木)・11日(金)
中東遠総合医療センター	12月21日(月)・22日(火)・24日(木)

募集人員:20人 費用:無料 保育費:一部支援あります

<高校生1日ナース体験ありがとうございました>

7月22日~8月24日まで、129校約1,600人の高校生が90の医療施設で1日ナース体験をしました。現場の看護職の姿に感激したり更に看護の道への意を強くした学生の報告もありました。

(公社) 静岡県看護協会 静岡県ナースセンター

本所 / TEL 054-202-1761 FAX 054-202-1762

東部支所 / TEL・FAX 055-920-2088

西部支所 / TEL・FAX 053-454-4335

下田相談所(毎週木曜日9:00~15:00) / TEL 080-2650-0327

天竜相談所(毎週火・金曜日9:00~16:00) / TEL 080-2650-0237

悩みは誰かに話しましょう。

話した内容が他の人や職場に伝わることはありません。お気軽にご利用ください。

【専用ダイヤル】 054-202-1780

助産師職能委員会

「いいお産の日」イベント

- 日時 平成27年11月7日(土) 10:00~15:00
- 場所 アピタ静岡店セントラルコート
(静岡市駿河区石田1丁目5-1)
- テーマ 支えあういのち
~大切なわたし 大切なあなた~
- 内容 子育て相談・妊婦体験
助産師の歴史展示・助産師活動写真展示
赤ちゃん人形の抱っこ体験 など
- 問合せ先 総務部 TEL.054-202-1750

看護協会
総務部

平成27年度 継続・入会手続きお済みですか？

- 会員期間 手続き完了後~平成28年3月31日(1年更新)
受付は、平成27年11月30日で終了します。
看護職賠償責任保険制度(平成27年11/1~補償開始)に加入を希望される方は、平成27年度会員資格が必要です。11月30日までに手続きして下さい。
- 会費 1)継続・再加入の場合 10,000円
(日看協会費5,000円 + 静岡協会費5,000円)
2)新規加入の場合 23,000円
(上記年会費 + 静岡県看護協会入会金13,000円)
※平成27年度他都道府県看護協会でも手続きされた方が、年度途中で静岡県看護協会に転入される場合は、年会費が免除になります。ただし、静岡県看護協会に初めて加入される方は、入会金が必要です。
- 問合せ・資料請求 総務部 TEL.054-202-1750

医療安全情報 平成27年度 第3弾

医療安全推進のための標準テキストから学ぶ ~事例を通して考える~

働き続けられる
職場づくり推進委員会

その注射・経路は本当に正しいですか？ 第3弾は、「薬剤の投与経路間違い」です。

製剤名	添付文書上の用法	実施した投与方法	背景
リスバダール内用液	経口投与	皮下注射	注射器に準備した
ケイツーシロップ	経口投与	静脈注射	注射器に準備した
メブチン吸入液ユニット	吸入	点眼	容器の形から、点眼薬だと思った
トロンピン液ソフトボトル	局所に噴霧、灌注、撒布または経口投与	静脈注射	ボトルの「禁注射」の記載を、注射器に吸い取ることが「禁」と解釈した

正しい用法の指示があつたにも関わらず、薬剤の投与経路を間違えた事例が4件報告されています
(集計期間：2010年1月1日~2015年2月28日)



薬剤投与時には、幾つかのチェックポイントがあります。忙しい時ほど、基本に則った確認=6Rを行いましょう。そして、最後に指さし呼称「よっし!」を忘れずに。実際、指さし呼称を行うとエラーを6分の1に減らすことができると言われています*。

誤薬防止の為に6R

Right Patient	正しい患者
Right Drug	正しい薬
Right Purpose	正しい目的
Right Dose	正しい用量
Right Route	正しい用法(経路)
Right Time	正しい投与時間

※芳賀繁・赤塚肇・白戸宏明:「指差呼称」のエラー防止効果の室内実験による検証 産業・組織心理学研究 Vol.9 No2

「医療安全推進のための標準テキスト」は日本看護協会のHPからもダウンロードできます。

公益社団法人 日本看護協会看護開発部看護事業課 URL:<http://www.nurse.or.jp>



クオカードが当たる!

次の4文字熟語の□に入る語を並びかえてひとつの熟語を作ってください。

□ 心 □ □

知 □ □ □

答え.

□ □

応募方法

当選者

葉書又はメールに答えをお書きのうえ、下記にお送り下さい。正解者の中から、抽選で5名の方にクオカード(1,000円分)を差し上げます。当選者はVol.41に掲載致します。(ペンネーム可)

●下記を記入の上応募してください

◆答え ◆氏名 ◆所属 ◆電話番号 ◆〒 ◆住所
◆看護しずおかの感想 ◆看護協会への御意見

お寄せいただいた御意見・御感想は、看護しずおかに掲載させていただくことがあります。

●締め切り: 10月20日(火)消印有効

●宛先: 〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25
静岡県看護協会 総務部 看護しずおかクイズ 係
メールアドレス: kango@shizuoka-na.jp

●クイズ(vol.2)答え: 夕立

●当選者: ペンネームレモンちゃん様・ペンネームまめこ様
阿部ゆみ子様・ペンネームもやしっ子様・内山ふじ子様